千枚田を守り抜いた偉大な先人たちへの鎮魂の灯

お田植感謝のタベ

～みんなで灯そう千枚田～

四谷の千枚田だより

第272号

お知らせ

五月三十日(土)、午前八時から「お田植感謝のタベ」を視野に環境整備を行います。

開催段取り

- 設営 午後二時から
- 夕方 六時 ろうそくを点火
- 七時 号砲を合図に開宴
- 会場では協力金(寄付金)の受付
  花火はコメントを披露します
- 旧連谷小からJA愛知東の好意でシャトルバス運行
- バザー 棚田っ娘の五平餅 八雲だんご・ヤマサちくわ 鳥長の皮肝 し し汁など盛沢山
- 九時 終演
- **雨天中止**

開催日時 令和8年6月6日(土)午後7時から

鞍掛山麓千枚田保存会

共　催：各種団体・地域住民の皆さん

協　力：愛知県ふるさと指導員

お天気仕事の棚田の百姓

昨年八月から、ろくに雨も降らんで、東三河の水瓶「宇連ダム」は貯水率０㌫(令和の大渇水)と危機的状況だったが、田んぼの代掻きにはうまい具合に雨が降ってくれて田植えも順調にでき、棚田の百姓衆はやれやれだ。

豊橋調理製菓専門学校の田植え

同校は、「食の原点を知る」をテーマに平成十八年から四谷の千枚田で米つくりを実践。自ら育てた米一粒の大切さを体感するため、田植え、田の草取り、稲刈り、脱穀と年に四回学習する。

五月七日、十六名の学生たちの稲作体験学習の窓口を担う新城市鳳来総合支所地域課山口副課長の進行により、東海農政局愛知県拠点早﨑統括農政推進官から四谷の千枚田は「つなぐ棚田遺産」に認定されている。日本の多くの棚田はお米の供給ばかりでなく国土保全など多くの機能を有しており、貴重な我が国の財産である。ほかに、食品ロスの軽減、地産地消(国内産)などを盛り込んだ挨拶があった。続いて愛知県新城設楽農林水産事務所近藤建設課長から素晴らしい景観を保持している四谷の千枚田を堪能、実のある稲作体験を期待する。と挨拶をいただいた。

初めて田植えを行う学生たちに先輩たちが実践した生育調査の結果から稲の苗を二本から三本を基準に植えると品質の良い米が収穫できる。等々、植える間隔と生育状態、一粒の米の大切さを説きながら田植えを行った。

S研の田植え

五月七日、メンバー六名は実践している田んぼの田植えを午前中にほぼ終了、午後は豊橋調理製菓専門学校の田植えのサポートを行った。

【写真:原田ふるさと指導員から田植えの秘訣を教わる】

S研とは= 新城設楽農林水産事務所管内の経済基盤の強化に繋げるため、地元との関わり合いやイベントなどへの参加を通じて、地域振興や農地の保全について考えることを目的に活動している。

JAこども農学校の田植え

JA愛知東が主催する「こども農学校の田植え体験」が八日、四谷の千枚田で行われ、参加した五十四人の子供たちは裸足で田んぼの泥に足を取られながらも丁寧に苗を植えていった。

ヤマサちくわの田植え

十日、恒例となった「ヤマサちくわ」の社員研修(二十七人参加)とした田植えが原田英史(理事)の指導で行われた。開始前に恒例になった挨拶では、苦慮している獣害被害の拡大などの苦労話などをお聞きいただいた。なお、佐藤社長は千枚田の保存継承に大きな理解を戴いていることから、図々しく「お田植え感謝の夕べ」にキッチンカーの出店をお願い、快諾された。

中村家の田植え

中村家ファミリーは毎年、田植えと稲刈りを楽しみに親交を築いている。支度、段取りをする戸主中村直人は…かなわんノン…と、言いながらも笑顔満載であった。

発行　令和八年五月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責　小山舜二